

のもだえ 苦しむのは傍らの見る眼も痛く、で兎兼ねて附添人達が医師  
に抗議すれば『ノミか喰つてもか臭い人とか臭い人とかある、痛むのと痛まら  
ないとは其人による』と医師はうそぶく。被害者の苦口願みられなかった。  
今村、山口、氏等が争議団幹部は各支部代表十三名と共に病院に行  
き、ヤク女、の苦しむを見て三度診察方を頼んだ。

斯くて警署官立合にて診察は行はれた

医師曰く『たいした事はない打撲はしるゝか熱も引いてゐる様だから心配する  
程の事はない、二三日もすれば治るであらう』

幹部問『原因は打撲でしやうか』

医 答『打撲不詳』

問『アバラの骨は折れてはいないか』

答『骨は折れてゐない様に見える』

然し本人は楯打された胸に一寸でも医師の手を觸れば『イタイ』と飛  
かざる程であった。更に後程になつて、医師の自身を聞けばその人は

『眼科まであつ』と云ふ事であつた

斯くて診察の形式は修了した。

医者は各代表者達に向ひ、『直ちに病院を出よ』命令した

この惨めなぶ状態と住友医師の心をさす手當なる事を充分承知の代表等  
は此より歸るを欲しなかつたが重態の自身に少しでも安静を與へんものと、医師  
の暴言や不親切な事柄を胸に納めて下山した。

初朝までの被塗口者の経過と

其後の 六合 能心 !!!

午後四時頃 熱 三六度 脈 八〇、

八二七時 〃 三六四度 〃 七八

冷静に復すると共に所々に傷痛を訴ふ、後頭部一帯に負傷あり、  
然し医師は軽い打撲だとして、單にヨシユームを塗る

十八日 午前九時 外科 医の診察を要す

医 腹壁に疾患ある模様だが内臓迄は至らなからぬ様に思ふが痛がる  
ので詳しく調べられぬと云つた